

人類の英知を糧に生き抜く



文学部長

河西 良治
かさい りょうじ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

授業や卒論指導などで、ときに見守り、ときに叱咤激励してきた皆さんが、これから世の中に、それもこの混迷の大海の真っ只中に乗り出して行くのを見送る者の気持ちには非常に複雑なものがあります。

私自身60年の人生を振り返ってみても、山あり谷あり、正念場が何度も訪れて、潮れそうになりながらも波を幾重にも乗り越えてきた経験があります。その経験のなから、皆さん一人ひとりにふさわしい言葉を贈りたいと思います。それが最も適いませぬ。私自身の人生を支えてくれた言葉をいくつか拾ってみると、一つは若い時の苦労は買ってでもしろです。これは若い当時は反発した言葉ですが、今になってみるとその通りだと思える言葉です。また、自分

の限界を感じて行き詰ったときは、「自然法爾」とか「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」などです。生老病死という人生の現実に向面したときには「裏を見せ表を見せて散る紅葉」が救いの言葉となりました。言葉の真義というものは現実の経験を通してはじめて納得ができるものです。これらの言葉は皆さんの人生の旅の途上であるいは吟味する機会があるかもしれません。皆さんはぜひそれぞれの生きた経験のなかで自分の人生を支える言葉を発掘してみてください。

人類の様々な時代を生き抜いてきた先人達の人生の智慧のなかに身を置きながら、一生素直に学び続ける、そして、皆さん一人ひとりが円熟した人間に成長して行くこと、これが皆さんに対する私の一番の願いであります。

まずは「訊き魔」として



総合政策学部長

河野 光雄
こうの みつお

卒業おめでとう。

学生生活を振り返って何を思い、これから出ていく社会でどのような生き方をしようと考えているのでしょうか？新しい環境がどのようなもので、そこでの自身のミッションが何であるのか、ミッションを実現していくために自身の力をいかに発揮するのか、そして自分に足りないものは何か、いろいろなことが頭をめぐり、それぞれの局面で自信を失いかけたり、希望が湧いてきたり、さまざまな感情にとらわれていることと思います。

まずは誠実にそして元氣よく新しい環境に入っていく行ってください。皆さんの力は、皆さんが思っているほどに大きなものではありません。よく勉強した人でも職場の会議に最初からついていけない人は少ないでしょう。ついていけなくて当たり前であることを自覚しつつ、知らないことを隠さず、知らないことが肝心です。ままで済まないことが肝心です。知らないことは恥ずかしいことではなく、尋ねることで簡単に知ること

になり、解決されます。尋ねないでやり過ごす、先輩たちはすでに知っているものとして、仕事をもってきて結果を要求します。結果が出せなければ「迷惑」が発生するばかりでなく、知っていることを応用できないと思われて、信頼は失われ、相手にされなくなりかねません。知らないことをやり過ぎささいな態度を忘れないでください。

しかし、皆さんの力は、卑下するほどの小さなものでもありません。知識こそ限定されているでしょうが、いくつかの断片的な知識から全体の姿を構成する力を涵養してきたはずで、現象を支えている実体を探り出し、本質をとらえることも訓練してきたし、そうした作業の楽しさも味わっているはずで、知識を動員し、新しい知識を獲得しながら、仕事をやりぬくことでミッションを果たしていく知的格闘に秘められた楽しさは、きっと仕事を苦しいと思わせないに違いありません。

まずは「訊き魔」として、新しい知識を獲得して理解の体系を拡大し、それを現実を活かすことで、皆さんが、自らの人生を豊かなものにしていくことを祈っています。